

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT
2024.6.VOL.53

contents

極 社会貢献
Social contribution

人 時の人
People in the news

技 研究
Current topics in research

和 お知らせ
Information

文部科学省「高度医療人材養成事業 (医師養成課程充実のための教育環境整備)」に 選定されました。

本補助事業は、大学病院における医学生の教育・研究環境の充実等を図るため、最先端医療設備の整備を支援し、我が国の「未来の医療」を担う高度医療人材の養成に貢献することを目的としています。

本公募の背景には、2024年4月からの医師の働き方改革、診療参加型臨床実習の実質化へ向けた臨床実習環境の更なる充実及び大学病院の機能維持などが挙げられており、名市大病院としても、医学部附属病院の役割である教育・研究・診療の各機能を三位一体で担い、他の医療機関にはない固有の機能として重要な役割を果たせるよう本補助金を活用して取り組みます。

事業名称：名古屋市立大学 高度医療人材養成事業 文責：医療人育成課



整備内容

- 手術支援ロボット(hinotoriサージカルロボットシステム)
- MRI生体内代謝イメージング

補助金交付額:250,000,000円
審査結果(総合評価):S



上田龍三名誉教授が 日本学士院賞を受賞されます!

2024年3月12日、学術上の優れた業績を顕彰する日本学士院賞に、上田 龍三 名誉教授が選ばれました。対象となった研究課題は「成人T細胞白血病・リンパ腫に対する抗体医薬開発のトランスレーショナル・リサーチ」で、本研究により抗体作製、前臨床研究、治験、薬事承認、コンパニオン診断薬開発に至る産学共同研究の新しい方向性が示されました。授賞式は、2024年7月8日(月)に予定されています。

文責：血液・腫瘍内科



“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

2024年能登半島地震への支援としてDMAT・DPATを派遣しました

2024年1月1日(月)に発生した能登半島地震に対して、本学医学部附属病院群から災害派遣医療チーム(DMAT※)及び災害派遣精神医療チーム(DPAT※)を派遣しました。被災地の病院における入院患者の移送や、被災者と支援者の双方に対する精神的支援を行うなどそれぞれ支援活動に従事しました。また、災害支援ナースと臨床検査技師も派遣し、避難所で感染症の被災者の支援や深部静脈血栓症(DVT)検診業務に従事しました。さらに、本学医学部附属院群では、石川県内の高齢者施設から広域医療搬送された入所者の受け入れなどもしております。被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、今後も医療支援に貢献してまいります。



出発時の名市大DMAT1次隊



出発時の名市大DPAT隊

※DMATとは大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場で急性期から活動する、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成される専門的な訓練を受けた医療チーム

※DPATとは自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの集団災害の後、被災地域に入り、精神科医療及び精神保護活動の支援を行う、精神科医師、看護師、業務調整員で構成される専門的な研修・訓練を受けた精神医療チーム

文責：名市大病院 経営課

地域への教育活動:中高生の職場体験受け入れについて

共同研究教育センターでは、2007年度より名古屋市内外の中学、高校から職場体験の受け入れを行っています。しばらく新型コロナウイルスの影響で一時中断していた職場体験でしたが、受け入れ再開により2023年度は11校からのべ71名の参加がありました。

職場体験とは、中高生が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事について体験したり、働く人々と接したりする学習活動のことです。共同研究教育センターでは、主に業務説明、実際に研究で使用されている電子顕微鏡をはじめとする顕微鏡の見学や、それら装置を使用した試料観察を体験してもらっています。また、臨床シミュレーションセンターにも協力していただき、一次救命処置や超音波診断シミュレーションの体験なども行っています。

体験に訪れた生徒からは、とても有意義だったと好評を頂いています。今後も、本学の研究機器、施設等の利用を通して、市民、地域社会と協働し社会に貢献していきます。



文責：共同研究教育センター

医療人連携・育成センターの設置

2024年1月に、医療人連携・育成センターが設置されました。まずは、名古屋市立大学病院内に設置し、附属病院群の医療人(医師、歯科医師、看護職、薬剤師、診療技術職、事務)に対して稼働し、将来的には学部教育を踏まえた組織への発展を目指していきます。

本センターは、医療人材の教育やスキルアップについて、学部間・専門職種で連携し、推進していくことを支援するセンターです。その目的は、各職種のキャリア相談・支援、専門資格の取得、スキルアップ体制を整備し、活躍できる医療人を育成することです。3月5日には、開設記念シンポジウムが開催され、教育と診療の架け橋、各職種の人材育成、キャリア支援の現状と課題について、講演、議論がされました。

キャリアアップされた各職種の皆様の活躍をご期待ください。

文責：医療人連携・育成センター 安井 孝周

新任教授紹介

腫瘍神経生物学 川内 大輔 教授

2024年4月から名古屋市立大学大学院医学研究科において腫瘍・神経生物学分野の教授を務めることになりました川内大輔です。私の専門は、神経発生学と腫瘍生物学の融合した新たな領域である「脳腫瘍発生学」で、特に小児脳腫瘍の進展機序の解明に挑んでいます。アカデミアの自由な環境を利用して、希少がんである脳腫瘍の新しい治療法を探求することは、私たちの大きな使命です。この責任感を胸に、若手研究者の育成にも力を注ぎ、彼らの情熱とともに、名古屋市立大学から世界へと脳腫瘍研究のさらなる発展を目指していきたいと思っております。前進するためには皆様の支援と助言が不可欠です。一層のご指導をお願い申し上げます。



川内 大輔 教授

新任教授紹介

医療統計学・データサイエンス分野 吉村 健一 教授

2024年2月1日付にて医療統計学・データサイエンス分野教授を拝命しました吉村健一です。謹んで御挨拶申し上げます。私は、愛知県に生まれ、東京大学および同大学大学院医学系研究科に進学し、生物統計学に関する研究を行って参りました。2005年博士号取得後は、生物統計学および臨床研究方法論を専門として、国立がんセンター、京都大学、神戸大学、金沢大学、広島大学において、多数の臨床試験に生物統計家として参画して参りました。名古屋市立大学でも引き続き臨床研究の推進に全力で取り組んで参ります。名古屋市立大学といえば臨床研究の拠点の1つとして認識されるように邁進して参りたいと考えます。皆様のご指導を賜りますよう宜しくお願い致します。

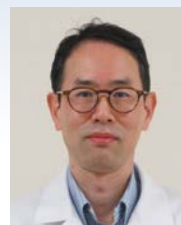


吉村 健一 教授

新任教授紹介

東部医療センター 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 讃岐 徹治 教授

2024年3月1日付で、名古屋市立大学医学部附属東部医療センター耳鼻咽喉科部長を拝命いたしました讃岐徹治と申します。私は1995年に愛媛大学を卒業し、世界初人工中耳を開発された愛媛大学耳鼻咽喉科初代教授柳原尚明先生に憧れて耳鼻咽喉科へ入局しました。その後反回神経麻痺診断法の開発などを行った後に大学院で神経喉頭科学の基礎研究を行いました。2001年から米国ワシントン大学で中耳真珠腫の基礎研究を開始しましたが、途中喉頭科学の世界的権威京都大学名誉教授一色信彦先生からお誘いを頂き、2003年に急遽帰国を決意し2年半師事させていただいたのが、現在の研究・臨床の基礎になっております。2017年名古屋市立大学に赴任後は、新規医療機器の開発と臨床応用を目指し新しい研究・診療体制の構築を行いつつ、鼻科学・喉頭・気管食道科学分野の臨床研究を中心に活動してまいりました。



讃岐 徹治 教授

現職では、これまでの経験を活かしつつ微力ではございますが名古屋市医療圏の耳鼻咽喉科診療および本学の更なる発展に貢献出来たらと思います。また4月1日から私の専門領域であります“声と鼻のセンター”を東部医療センター内に開設していただきました。今後先進かつ高水準治療を提供可能な音声障害治療・鼻科手術のハイボリュームセンターへと発展させたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

新任教授紹介

東部医療センター 感染症学 伊東 直哉 教授

2024年4月1日付で、感染症学分野教授、東部医療センター感染症内科部長を拝命しました伊東直哉と申します。2007年に東海大学を卒業後、大阪、奄美大島で総合内科医・総合診療医として6年間研鑽を積んだ後に2015年より静岡県立静岡がんセンターで感染症の専門研修を受けました。その後、2019年に熱帯医学を学ぶためにタイのマヒドン大学熱帯医学部に留学し、帰国後は東北大学の新興・再興感染症学講座で学位を取得いたしました。前任地の愛知県がんセンターでは、がん患者の感染症のコンサルテーション、COVID-19を含む臨床および院内感染対策、臨床研究などを行って参りました。また、代表世話人を務めております日本感染症教育研究会(IDATEN)では、日本の臨床感染症診療と教育の普及・確立・発展を目的に活動して参りました。



伊東 直哉 教授

名古屋市立大学においては臨床感染症学の講座は新設であり、卒前卒後教育を通じて次世代の感染症医療人材の育成とネクストパンデミックおよび地域の薬剤耐性菌対策を中心に取り組んでいく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

新任教授紹介

西部医療センター 皮膚科 西田 絵美 教授

2024年1月1日付けで名古屋市立大学医学部附属西部医療センター皮膚科教授を拝命いたしました、西田絵美と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は2004年に名古屋市立大学医学部を卒業し、大学院時代には京都大学AKプロジェクトにおいて基礎研究を行い、以降名古屋市立大学病院へ戻り、当科の得意とする光線療法を学び、乾癬をはじめとする難治性の炎症性皮膚疾患を多く診療して参りました。またコロナ禍となった2020年4月、地域の中核病院である岡崎市民病院の皮膚科統括部長として多くの経験を積み、この度2024年4月西部医療センターにおいて東海地方初となる“乾癬治療ケアセンター”を立ち上げました。乾癬診療をより集学的に行えるセンターへと発展させていきたいと考えております。どうぞご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



西田 絵美 教授

退職者紹介

臨床病態病理学 稲垣 宏 教授

1984年に名古屋市立大学を卒業し、同第1外科学教室にて研鑽を積んだ後、1991年からは名古屋市立大学臨床病態病理学分野にて病理学の研究を本格的に始めました。2008年には同分野の教授に就任し、病院病理部部長などを務めながら、2024年3月末をもって定年退職しました。この間、多くの皆様のご支援をいただき、悪性リンパ腫や唾液腺腫瘍を中心に研究を進めることができたことに厚く御礼申し上げます。

知多厚生病院におきましては2024年4月に病理診断科を新設していただきました。これまでの経験を活かし、同病院の病理診断の向上や若手医師の教育に貢献していきたいと願っています。名古屋市立大学および同医学研究科の益々のご発展を祈念しています。



稲垣 宏 教授

退職者紹介

法医学 青木 康博 教授

2024年3月末をもちまして、定年退職いたしました。15年にわたり法医学分野教授として、医学研究科はもとより全学の皆様のご支援を賜り、職務を全うできたことを、まづもって御礼申し上げます。

名古屋市立大学に赴任した2009年以来、死因究明制度の充実をめぐり、学会や国・地方自治体において様々な活動を行う一方で、かねてからテーマに据えたいと考えていた、法医遺伝学の数理的研究や3次元画像解析による法医人類学的計測法の検討などを若い研究者とともに進めて参り、必ずしも顕著な業績を挙げることはできませんでしたが、幸福な時間を過ごせました。

最後になりましたが、名古屋市立大学医学研究科に関わる皆様のますますのご活躍を祈念しております。



青木 康博 教授

時の人

英国短期留学・フェロウシップ紹介 医学部5年生 中川 朝子 さん

医学部6年の中川朝子と申します。2024年3月の1か月間、医学教育振興財団のご支援の下、イギリス・ニューカッスル大学で選択制臨床実習に臨みました。前半2週間は呼吸器内科を回り、英語での問診や外来見学を通じて現地の医療を学びました。嚢胞性線維症など、普段馴染みのない疾患にも触れることができよかったです。後半2週間は腫瘍内科を選択し、がんセンターで研究・臨床両面の最先端を視察しました。先生方のご厚意もあり、NHS(※)の核をなす家庭見学、個人的に興味のある緩和ケアや小児脳神経腫瘍関連の実習など、様々な経験を積ませていただきました。同制度は全国の医学部生へ門戸を開いています。興味のある方はぜひご応募を!

※National Health Service(国民保険サービス)…イギリス政府が税金を財源として運営する公的医療サービス

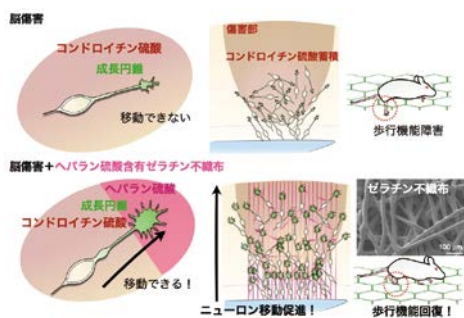


中川 朝子 さん

移動する神経細胞のアクセル・ブレーキを司る構造を発見

脳梗塞や脳外傷が生じると細胞が失われ、脳の再生は困難となります。生後の脳において、一部の領域では神経細胞(新生ニューロン)が産生されることから、新生ニューロンの傷害部への移動を促進することで、脳機能の回復が可能と考えられます。本研究で我々は、新生ニューロンには、移動を司る成長円錐があることを発見し、移動しにくい脳傷害部においても、成長円錐の動態を調節することで、ニューロン移動を可能にする分子メカニズムを解明しました。そのメカニズムを増強するタンパク質を含むゼラチン不織布を、脳傷害部に移植することで、ニューロン移動を助け、傷害脳における神経再生と機能回復を促進することに成功しました。これらの結果は、脳疾患に対する再生医療の開発につながると期待されます。研究成果はNature Communications誌に掲載されました(PMID: 38461182)。

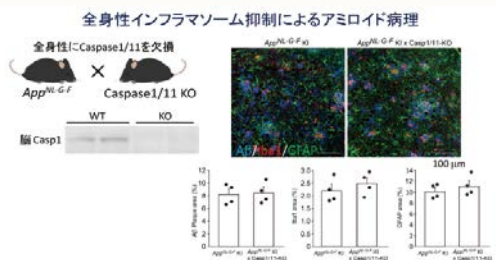
文責：脳神経科学研究所 神経発達・再生医学分野 中嶋 智佳子 特任助教、澤本 和延 教授



アルツハイマー病の前臨床モデルにおいて、 β アミロイド誘導性神経病理の形成にインフラマソームは関与しない

アルツハイマー病(AD)は、発症の数十年前(前臨床期)から脳内でのアミロイド病理の形成が引き金となり発症すると考えられます。アミロイド病理は、グリア細胞を活性化させ「神経炎症」状態を惹起することで、アミロイド病理をさらに悪化させると考えられ、インフラマソームという炎症プラットフォームの活性化が重要であることが通説となりつつありました。本研究では、インフラマソームによる炎症応答は、前臨床期のアミロイド病理形成には関与していないことを国際共同研究により明らかにしました。そして、非炎症性のグリア応答が前臨床期のADの病態形成に重要な役割を果たしているという新たな概念を提唱しました。今後、AD発症メカニズムを明らかにし、適切な創薬標的を見いだしていく必要があります。本研究は強くその一助になると考えられます。研究成果はFrontiers in Immunologyに掲載されました(PMID:38352874)。

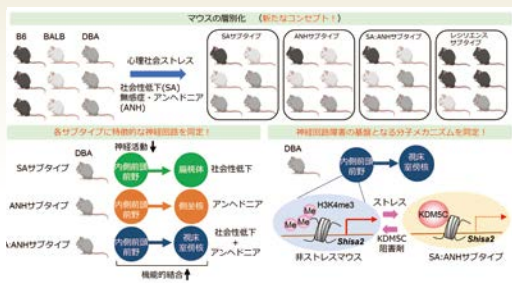
文責：脳神経科学研究所 認知症科学分野 齊藤 貴志 教授



心理社会ストレスによる症状発現の 個体差が生じる脳内メカニズムを解明

ストレスは様々な疾患の発症リスクを増大させると指摘されています。しかし、ストレスを感じる度合いは個人で異なり、ストレスによって表出する症状も個人で異なるなど多様性があります。しかし、その個人差を生み出す脳内の仕組みは分かっていませんでした。本研究では、マウスを用いて心理社会的ストレスに晒された際に表れる症状によってマウスを層別化(サブタイプ分類)することで、各サブタイプの行動変容を規定する脳内メカニズムの解明に成功しました。さらに、異常な行動を正常化させる制御法の開発にも成功しました。困難や逆境に適応・回復する力(レジリエンス)を高める技術開発、ストレスが引き金となって発症する精神疾患の病態究明や新たな治療法の開発に繋がることが期待できます。研究成果はNeuronに掲載されました(PMID:38228137)。

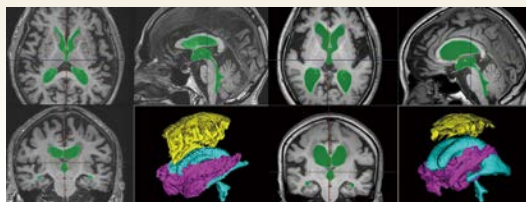
文責：医学研究科統合解剖学 内田 周作 准 教授



ハキム病の診断に有用な画像所見 脳室拡大とDESHを自動判定するAIを開発

歩行障害、物忘れ、尿失禁の三つの症状で知られるハキム病(特発性正常圧水頭症:iNPH)は進行性の病気であり、早期発見、早期治療が重要です。脳室拡大とくも膜下腔の不均衡分布(DESH)はハキム病の発見に有用な画像の特徴として知られています。従来は脳のCTやMRI画像から医師が判定していました。しかし、DESHは主観的な評価であり、判定が分かれることも多くありました。そこで、脳3D MRI画像から区域を自動抽出する人工知能(AI)に加えて、その抽出区域からDESH、脳室拡大、高位円蓋部・正中の脳溝の狭小化(THC)、シルビウス裂・脳底槽の拡大(SFD)を自動判定するAIを富士フイルム株式会社のクラウド型AI技術開発支援サービス「SYNAPSE Creative Space」を活用して開発しました。さらに、開発したAIのうち前半部分を富士フイルムの3D画像解析システムSYNAPSE VINCENTの『脳脊髄液腔解析』アプリケーションとして医療機器承認を得てリリースされました。研究開発から社会実装、臨床の発展に直結する研究成果です。研究成果はFrontiers in Aging Neuroscienceに掲載されました(PMID:38560023)。

文責：医学研究科脳神経外科学 山田 茂樹 講師



左:健常者、右:ハキム病患者の脳室拡大とDESH

リハビリテーション学専攻教員懇談会

2024年3月21日、2025年度に開設予定の「医学部保健医療学科リハビリテーション学専攻（設置構想中）」の教員候補者15名と理事長、学長始め本学関係教員との懇談会を開催しました。

懇談会を通じて、リハビリテーションの重要性を再認識するとともに、その人となりを深く理解することができました。良質な理学療法士・作業療法士を輩出し、地域医療に貢献できますよう、教員候補者の皆様と本学関係教員で力を合わせ、これからも尽力してまいります。

文責：医療人育成課



ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学 学長一行が訪問しました

2024年2月13日(火) 本学のフランスにおける拠点校であるランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学 (URCA) の学長一行6名が医学研究科と附属病院を訪問しました。医学研究科では高橋研究科長よりの挨拶と泌尿器科の研究発表に続き、共同研究教育センター、脳神経科学研究所を訪問しました。また、附属病院では、間瀬病院長による病院概要説明後、外来科学療法室、輸血・細胞療法部の見学を行いました。URCAは医学を含めた8学部を擁する総合大学で、名古屋市の姉妹都市であるランス市に所在します。同大学では医療分野におけるAIの活用も積極的に進めており、今後病院も含めた双方向の交流拡大が期待されます。

文責：国際課



名市大×名工大 技術及び共同利用に関する情報交換

共同研究教育センターは、医学研究科や附属病院群の研究者が使用する大型研究機器の維持管理および研究支援を行っております。技術向上等を目的に、名古屋工業大学と2018年度より技術職員の日常業務に関し1回情報交換会を行っております。2023年度は、名古屋市工業研究所、岐阜大学、日本電子も参加し名古屋工業大学にて合計41名(本学からは教員、技術職員、プロジェクト推進員の合計5名参加)で開催されました。東京工業大学の高度人材育成システムに関する講演や、各施設紹介があり、その後に行われた技術職員によるポスター発表では、それぞれの大学等の垣根を越えた交流をおこなうことができました。この取り組みによる成果については、日常業務に生かしていきます。



文責：共同研究教育センター

2024年度 医学部新入生歓迎会を開催しました

2024年4月4日(木)、医学部新入生歓迎会を5年ぶりに開催いたしました。昨年まではコロナ禍で中止を余儀なくされましたが、今年度は感染流行が完全に終息したとはまだいえない中で人数を制限して行いました。部活動で活躍した人や、カリキュラムの一環として医学研究に取り組む基礎自主研修の優秀発表者の表彰なども行い、学内行事や医学部の先生方の紹介を行う機会にもなりました。新入生は同じクラスの学生、担当教員との歓談ができ、大学生活のスタートとしてとても良い機会となったと思います。そして教職員にとっても、学生と直接ふれあう大切な機会となりました。実りある歓迎会開催のためにいただいた皆様のご協力に感謝申し上げます。そして今後学生たちが素晴らしい学生生活を送れるようにサポートしていきたいと思っています。

文責：上島 通浩



04 お知らせ Information

桜花学園高等学校ハンドベル部によるミニコンサートが開催されました／ 名市大病院

2024年3月22日に桜花学園高等学校ハンドベル部「Cherry Bell Ringers」による、患者さん、ご来院の方及び医療従事者のための院内ミニコンサートが開催されました。コンサートでは、一般的な奏法の「リング」や、マツに叩きつけて短い音を鳴らす「マルテラート」、ベルをばちで叩く「マレット」など様々な奏法が用いられており、曲だけでなく音も楽しめるような演奏を披露いただきました。また、当日は小さなお子さんからご年配の方まで幅広い年齢層のお客さんが会場を訪れましたが、「ディズニーソング」や「赤いスイートピー」など、どの年代の方も楽しめるような曲目となっております。最後には、ハンドベル部の卒業生が作曲した曲が演奏され、大盛況のうちに閉幕となりました。

文責：名市大病院 経営課



がん相談支援センターを開設しました／東部医療センター

東部医療センターは、併存疾患の多い高齢者の方にも質の高いがん診療が受けられる中心的な医療機関となるべく、各部門を統括する組織の立ち上げやがん専門医の増強などの体制整備を進めており、2024年4月1日付で「がん相談支援センター」を開設することとなりました。

このがん相談支援センターでは、国立がん研究センターの研修を受けた相談員が配置されており、仕事と治療の両立やアピアランスケア、医療費負担などのがんに関する様々な相談について対応いたします。

私は2022年10月に東部医療センター消化器内科教授・診療科部長を拝命し、主に肝胆膵がんの内視鏡的診断や治療に注力してまいりました。このたび患者相談支援室長を兼務させていただくこととなりました。

患者さんやそのご家族に寄り添い、お困りごとの解決に少しでもお役に立てるよう、がん相談支援センターの運営に努めてまいります。

文責：副病院長 消化器内科 教授・診療科部長 林 香月

※ご寄附(あじさい基金)により整備させていただきました。



臨床研究で科研費が採択されました／西部医療センター

この度、西部医療センターで行っている臨床研究で2024年度基盤研究Cが採択されましたのでご報告申し上げます。臨床病院で採択されるために自分なりに次の3点を強く意識しました。

1) 社会のニーズ

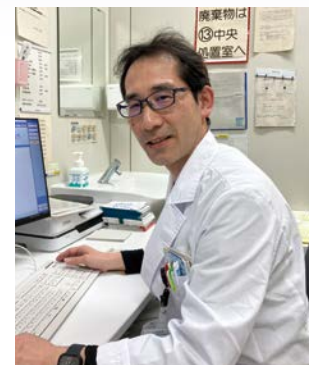
国家の課題である少子化対策を意識しました。妊娠糖尿病と診断された患者様が安心して出産できるためにできることを探しました。

2) 当院の強み

周産期医療センターがある当院では、産婦人科より妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の患者様の依頼を数多く受けています。

3) 実現性

研究協力者の名市大消化器代謝内科学の田中智洋准教授は肥満、脂肪細胞の研究のエキスパートであり、アディポカインの測定に習熟しています。



その結果「アディポカインから見た妊娠糖尿病へのインスリン治療導入予測因子の検討」というタイトルが生み出されました。

この臨床研究には当科および産婦人科の先生方、内科外来や中央検査科の皆様と多くの方々のご協力があったり成り立ちました。また申請書の作成から提出に至っては事務職の担当者より多大なサポートをしていただきました。これらすべての方々に深謝いたします。

文責：西部医療センター 内分泌・糖尿病内科 今枝 憲郎

ヘルスケアアートが描かれました／みどり市民病院

当院利用者さまへのより良いサービス提供の一環として、2023年8月末に院内美化プロジェクトを立ち上げ、半年に渡り待合スペースの壁面装飾や中庭の整備を行いました。

プロジェクトは、ヘルスケアアートの実績がある鈴木賢一(名古屋市立大学)特任教授、阿部順子(椋山女学園大学)准教授、高野真悟(名古屋短期大学)准教授と上記3大学の学生にご協力いただき、1階受付前待合スペースの大鏡、中庭、小児科外来、2階の待合スペースにホスピタルアートが完成しました。プロジェクトには当院職員も制作に携わり思い入れのある暖かい雰囲気になりました。また、小児科外来はペイントに加え、名古屋短期大学の学生さんが制作したおもちゃもあり、より一層楽しく過ごせる場所となりました。

引き続き病院スタッフ一同、当院利用者さまが快適に過ごしていただけるような環境づくりに努めてまいります。

文責：みどり市民病院 経営課



地域のコミュニティセンターで「認知症キャラバン」を開催しています／みらい光生病院

当院は、「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を地域と連携して提供するとともに、百寿社会に資する先端研究を行い、優れた医療人を育成します。」という理念を掲げ、附属病院化を機に新たに外来診療を開始したように、より一層地域の病院として地域とともに歩んでいきたいと考えています。

そこで社会貢献活動の一環として、健康寿命の延伸に向け、自立・自活につながる健康文化の発信に注力していくことを目的に、「認知症キャラバン」を地域のコミュニティセンターで開催しています。

2024年3月6日(水)に貴船コミュニティセンター、3月27日(水)に極楽コミュニティセンターで開催し、地域住民の皆様にご参加いただき、認知症に関する講演及び質疑応答を行いました。

今後も「認知症キャラバン」に限らず、様々な企画を地域に還元し、地域とともに歩んでいきたいと思ひます。

文責：みらい光生病院 経営課



医師国家試験結果について

第118回医師国家試験が2024年2月3日(土)、4日(日)に実施されました。本学は、新卒者111名のうち、109名が合格、合格率98.2%という結果となり、全国82校の医学部・医科大学中で19位でした。医師国家試験は団体戦だと言われる。同級生同士で支え合い、努力し続けた結果だと思ひます。

令和5年度 医師国家試験結果

第118回本学統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考)第117回
本学 (新卒)	111	109	98.2%	97.5%
本学 (既卒)	3	3	100%	66.7%
本学 (全体)	114	112	98.2%	96.4%
第118回全国統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考)第117回
全国(新卒)	9,489	9,048	95.4%	94.9%
全国(全体)	10,336	9,547	92.4%	91.6%

文責：医療人育成課

広報誌：瑞 医(ずい)
発行：〒467-8602

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
TEL(052)858-7529 FAX(052)851-4801

URL <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

我こそは
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話をお届けして下さるサポーター大募集!
「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。
我こそは、という方は、E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp
病院管理部経営課経営係 広報担当まで

※次号の発行は2024年9月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]